

# 社内の力を結集した「瑞穂プロジェクト」により、 いよいよ新システムが稼働開始しました。

2011年4月より、新基幹システムがいよいよ本格稼働をはじめました。

準備に要した時間は約1年6ヶ月間、

社内の全部門を巻き込むスケールでの重要プロジェクトを推進したのは、

各工場・各部門から集められた「瑞穂プロジェクト」の若いスタッフ達です。

その主要スタッフから、その経緯と成果をご報告します。



プロジェクトリーダー  
経営企画室 課長 青山 勝則



人事/就労管理担当  
総務部人事課 主任 宮田 英次



プロジェクト事務局  
情報システム室 室長 松島 和文



化学物質管理担当  
品質環境保安室 中橋 学

## ■ 新統合システム導入と瑞穂プロジェクト

ヤスハラケミカルではシステム更新を経営改革への好機と捉え、従来の延長線上ではなく、全社的にITシステムを見直し統合するという方向性を選びました。

これまでの基幹システムでは、各工場や営業所で個別に運用していたデータを本社に集め管理していましたが、新しい基幹システムではこれらを統合化し集中一括管理するこ

とにしました。システム統合は業務効率を改善し、経営判断のスピードを向上させるためにも有効ですが、そのためには部門毎に個別に異なる業務プロセスの標準化や調整が必要です。

そこで新システムをスムーズに浸透させるために、社内横断的な推進組織「瑞穂プロジェクト」をスタートさせました。

### ■ 新システム概念図



## ■ 新システム移行への困難と克服

準備中、最も困難だったのはマスターのセットアップで、これまで個別に処理していたものを統合化しようとするため、マスター数も多く想定以上の作業量と調整が必要でした。またイレギュラーな業務も多いため、パッケージにあわせた業務の標準化作業も、想定より多くの時間がかかりました。

それらの課題は社内的にも多くの負荷をかけたのですが、瑞穂プロジェクトチームが一丸となり乗り越え、日常業務に支障を来すことなく、新システムに移行させることができました。



## ■ 先行して開発した2つのサブシステム

基幹システムとは別に、2つのサブシステムも新たに導入しました。

一つは「化学物質管理」で、平成22年末までに製品安全データシートを国際ルール(GHS)へ準拠させることが法律で規定されていたため、先行導入しました。GHS準拠のシートを作るには、高度な専門知識と正確な表現能力が必要で、社内でも限られた人だけがができる特殊な業務でした。新システムには多様な素材毎の詳細データを登録することで、正確なシートを誰でもスピーディに作れるようになりました。

もう一つのサブシステムは「人事／就業／給与管理」で、4月から磁気カードによる完全電子化を導入しました。これ

により勤務体系が複雑な当社においては事務作業の大幅軽減とともに給与振込管理の自動化、時間単位での有休管理など、多くの効果が上がっています。



製品安全データシート



社員カードとIT端末

## ■ 導入効果とこれからの活用計画

導入当初は、実際の運用に際しさまざまな調整や戸惑いもありましたが、6月頃から計画通りの運用を行えるようになってきました。

新システムから提供されるタイムリーで正確なデータは、経営陣にとっては迅速な経営判断につながり、各現場では

業務効率化のヒントにもなります。

これらのデータを全社員が共有し、PDCAサイクルやTQCなど日常業務改善に積極的に活用するように促していくことが、今後の当社の使命であると考えています。